

校長室だより
NO. 28
令和元年9月30日

すべては光る

梅園小学校長
たか すりょうへい
高 須 亮 平

歴史的勝利を支える「One for all, all for one」の意味とは

アジアで初開催となるラグビーワールドカップ日本大会が9月20日（金）に開幕しました。日本（世界ランキング9位）は開幕初戦でロシア（世界20位）に30対10で勝ち好スタートを切りました。第2戦は9月28日（土）、アイルランド（世界2位）に19対12という歴史的勝利をあげ、日本中を盛り上げています。その内容はスペシャルプレーというよりスクラムやタックルに支えられた確実なプレー、いわば正攻法で勝ち得た勝利でした。次のサモア（世界16位）戦、スコットランド（世界8位）戦がたのしみになります。是非とも2つとも勝ちベスト8、決勝トーナメントに勝ち進んでほしいものです。（世界ランキングは9月27日のもの。以下同様）

その日本代表選手の中に、本校の卒業生の田村優選手がいます。ポジションはスタンド・オフ（SO）で背番号10です。チームの司令塔で、攻守の場面の基点となったり、キックの場面になると登場したりしますので、テレビにはよく映っています。子どもたちには、あらかじめ校内放送で知らせましたので、ご家庭でも話題になっていることと思います。本校の卒業生が、このように世界戦に活躍する姿を見せてくれることは、子どもたちにとってうれしいことと思いますし、なぜか誇らしくも感じます。



今回は、ラグビーの言葉である「One for all, all for one」に本校卒業生の田村優選手について考えてみたいと思います。これは、とても有名な言葉ですので知っている人も多いと思います。この意味は「一人はみんなのために、みんなは一人のために」というように使われ、歌にもなっているほどです。この言葉は、集団で1つの活動に取り組んでいくときには、とてもいい言葉ですし、私自身も好きな言葉です。

しかし、これは実を言うと、本来の意味とは少し違っているのです。その意味とは、

「一人はみんなのために、みんなは1つの目的のために」

なのです。ここでいう「目的」とは、ラグビーでいう「トライ」「勝利」なのです。

まさに、アイルランド戦で見た日本代表の姿そのものだと思います。これを、一般的な集団に置き換えても意味が通じます。1つの目的、つまり「ゴール」のために全員が役割を自覚し、それをしっかり果たすのが重要ということなのです。

ここで、「1つの目的を達成するためには」ということについてです。このことをラグビーを例にしますと、ラグビーというスポーツは、攻撃をする際、サインが出て全員がそのサイン通りの動きをします。サインはトライを取るために出すので、理論的にはサイン通りに全員がプレーすれば必ずトライが取れることになります。しかし、これが理論通りにはいかず、トライが取れない



田村選手のペナルティキック

ことが多くあります。このことは、他のスポーツでも同じことが言えるでしょう。それでは、なぜトライが取れないかという、そんなに難しい問題ではなく、理由はシンプルに次の2つをあげることができます。

1つは「敵のディフェンスがうまい」こと、もう1つは「味方がミスをした」ことのどちらかです。どちらにしても突然、前提条件が崩れ、想定していない事態が発生するので、当然ボールをキープして攻撃を続けないとトライは取れないのです。逆にボールを取られれば、こちらとしてはピンチに陥ります。

では、どのようにボールをキープするかと言いますと、ボールを持っている人間が役割を果たせなかったことを常に想定し、フォローしていくことが求められます。そうすればキープはできます。そこでは、「ミスはいつでも起こる（という想定）」「それを仲間が全力でフォローする（想定外なことが起きててもフォローする）」「ミスは起きるものなので、ミス



松島選手のトライ(ロシア戦)



福岡選手のトライ(アイルランド戦)

を責めない。逆にフォローしていなかったことを責める」というようなマインドになります。この繰り返しの中で、1つの目的である「トライ」「勝利」につなげるのです。もちろん、安易なミスを頻繁に起こしては困るわけで、ここで言うミスとは、敵の執拗なプレッシャーによって引き起こされるミスということになります。

そもそもラグビーというスポーツは、ポジションごとの役割が明確に定まっています、体格もスキルもパワーもそれぞれが違う15人が、仲間を信頼して初めてチームが成り立つというようになっています。その中で、「誰が1番うまいか？」などという質問は、ラグビーでは愚問で、それぞれが、それぞれの役割ときちんに行い、また互いをリスペクトし合わないと勝てないスポーツなのです。

つまり、1つの集団においても、「誰が優秀か」などではなく、それぞれの役割をきちんと果たしながら、チームが1つの目的に向かって機能し、互いがリスペクトし合い、フォローしていくということが前提となっているという考え方です。それを、「自分の考え」をもって仲間を信頼して進むことになれば最高ですし、それが「One for all, all for one」という言葉の本来の意味となっているのでしょう。

私は、高校から大学、社会人と10年間、ラグビーをやっていました。その頃から思うと、現在の日本の世界ランキングが9位で、また日本でラグビーのワールドカップが開催され、ヨーロッパのチームに勝つなんていうことは、夢のまた夢の話のようです。本当に素晴らしいことで、感動を与えてくれたことに感謝しています。アイルランド戦での勝利直後、本校の卒業生である田村優選手が、インタビューで語っていた言葉「自分たちは勝利を信じていた。これはたくさんの犠牲の上にある」がとても印象的でした。まさに「1つの目的のために」という「One for all, all for one」の精神です。梅園小学校の校舎に掲げられている「信じよう わたしのやればできる力」と同じなのですね。勝利への信念とそれを裏付ける努力の大切さを感じます。